

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 東住吉区

学 校 名 田辺小学校

学校長名 山本 隆

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・田辺小学校では、第6学年 117名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 国語科については、平均正答率が全国平均より0.2ポイント上回る結果であった。
- ・「A話すこと・聞くこと」では1.5ポイント「B書くこと」では0.1ポイント全国平均より下回った。「C読むこと」では全国より2.6ポイント上回った。
  - ・全14問中、平均正答数が9.4問であり、高い割合を示している。また中央値10、標準偏差が3.0であったことから上位層と低位層の差は小さい。
  - ・平均無解答率は全国より0.4ポイント低いことから、無解答の割合が低い。
- 算数科については、平均正答率が全国平均よりは1.0ポイント上回る結果であった。
- ・「A数と計算」ではより2.4ポイント、「B図形」では1.8ポイント、「Dデータの活用」では0.6ポイント全国平均より上回った。
  - ・中央値が10、標準偏差3.6であった。全国の標準偏差は4.0であることから、全国の数値と比較すると上位層と低位層の差は小さい。
  - ・平均無解答率は全国より0.6ポイント低いことから、無解答の割合が低い。
- 理科について、平均正答率が全国平均より上回る結果であった。
- ・「エネルギーを柱とする領域」ではより1.5ポイント、「生命を柱とする領域」では4.4ポイント、「地球を柱とする領域」では0.4ポイント全国平均より上回った。
  - ・中央値が10、標準偏差3.7であった。全国の標準偏差は3.8であることから、全国の数値と比較すると上位層と低位層の差は小さい。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

## 〔国語〕

- 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうか
- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうか
- 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうか
  - 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうか
- ⇒多くの項目で全国平均を上回っている。特にこれまでに学年ごとの習得すべき知識は習得していると言える。さらに、これまで課題にもあげていた「目的や意図に応じて自分の考えをまとめ、文章に書き表す」といった記述式の出題については全国平均よりも上回ることができた。しかし、課題にもあげている「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうか」については、全国平均より大きく低い状況であり課題解決のために取り組んでいく必要がある。

## 〔算数〕

- 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうか
- 簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうか
- 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうか
  - 台形の意味や性質について理解しているかどうか
- ⇒多くの項目で全国平均を上回っている。特に計算技能をはじめ、基礎的な学力は十分定着していると言える。一方で昨年度も課題としてあげられていた「どうしてそうなるのか」といった理由を書き表すことは全国平均より大きく低い状況であり、引き続き課題解決に向けて取り組んでいく必要がある。

〔理科〕

- 乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうか
  - レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうか
  - 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうか
  - 水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうか
- ⇒多くの項目で全国平均を上回っている。「電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうか」について全国平均より大きく低い状況であり、実験した結果を知識や科学的思考に結び付ける必要がある。

質問調査より

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」では、今回、全国平均よりも若干下回る結果となった。しかし、これはほぼ全国平均で児童が安心して学校生活を過ごすための指導の成果と言える。その土台があることで学びに向かう姿勢もより向上し、基礎基本の定着につながった。。一方で「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」では7. 7ポイント全国平均より下回った。そのことから自分の考えと他者の考えを比較し、自分の考えを深めていくことが今後の課題である。

## 今後の取組(アクションプラン)

全国平均を上回っている現状を維持するために次のことを行う。

- 算数科では、引き続き研究教科として設定することで根拠をもとに自分の考えを書くとともに、伝え合い、学びあえるような学習活動を取り入れていく。
- 基礎基本の定着の土台といえる「学びに向かう姿勢」が一層高まるよう、個に応じた指導をするとともに「児童の良いところを認める」ことを継続していく。
- 安心して学校生活できるように「いじめはどんなことがあってもいけないこと」と児童が100%思うことのできるよう、道徳科を中心に、学校生活全体を通して安心して過ごすことのできる学校経営を引き続きすすめていく。